

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料



株式会社オリジン

証券コード: 6513

2021年11月24日

目次

- ・社長ご挨拶 … p. 3
- ・決算概況 … p.11
- ・研究開発の方向性について … p.16
- ・事業の成長戦略 … p.23
 - エレクトロニクス事業
 - メカトロニクス事業
 - ケミトロニクス事業
 - コンポーネント事業
 - 半導体デバイス事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513



2022年3月期 第2四半期連結決算説明資料

2021年11月24日



ご案内

経営企画本部 部長 (IR・サステナビリティ統括)

田中紀夫

社長ご挨拶



株式会社オリジン

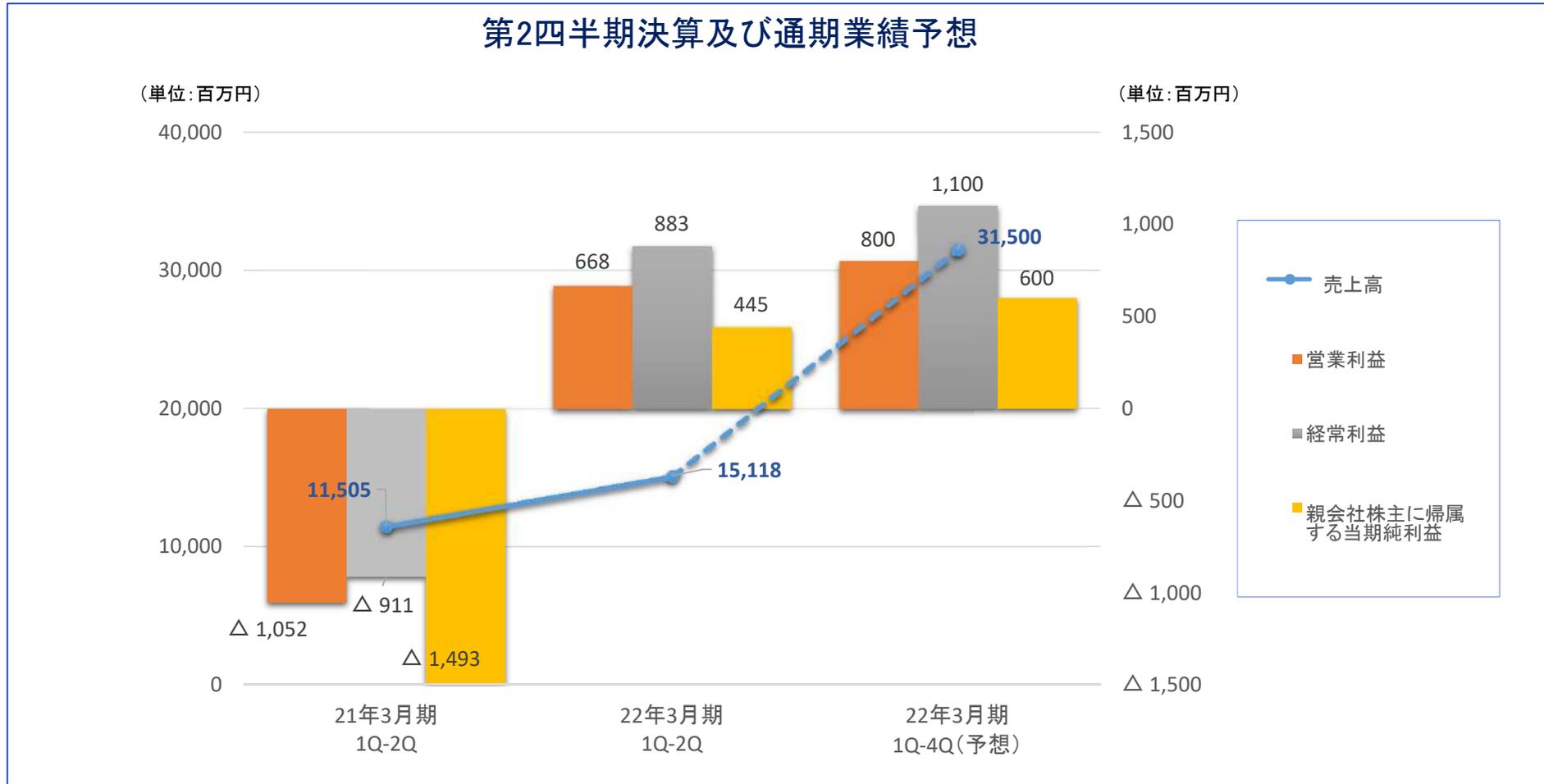
証券コード: 6513

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日



代表取締役社長
妹尾 一宏

2022年3月期 第2四半期連結決算の概要



研究 & モノ創り ~ 技術を深化させ他を凌駕する ~

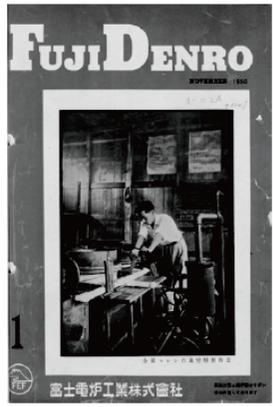


図 1-1 50年創刊号 No.1, 1950

SOT-227 パッケージ TO-247 2端子タイプ
 HVDC整流装置
 X線装置用ジェネレータ
 コンデンサ式抵抗冷却機
 Display Bonder (DB)
 オリジナルの CRIGPLATE Z
 プラネットS PLANET SV-8
 携帯型 Cell phone paint
 磁性流体シールヘアリング
 2段式トルクリミッタ
 めっき用塗料
 高硬度塗料
 機能性塗料

オンリーワン技術を磨く
「独自性ある企業」



新たな価値を創造し
社会に貢献



技術にこだわり
ニッチ・トップ
を目指す

CSRからサステナビリティへ ～オリジンのサステナビリティ方針～

オリジンは、経営理念およびグループ行動憲章を基に、すべてのステークホルダーからの信頼と期待に応え、サステナビリティ経営を推進し、オリジンの持続的な成長、企業価値向上を図るため、新たに「サステナビリティ方針」を策定しました。

株式会社オリジン サステナビリティ方針

株式会社オリジンは、「人類社会に役立つ存在感あふれる企業を目指し、世界中から情報が集まり人が集まる『開かれた企業』となろう、オンリーワン技術を磨く『独自性ある企業』となろう、チャンスを与え失敗を乗り越え 任せることの出来る『自己実現の場である企業』となろう、新たな価値を創造し社会に貢献する企業となろう」という経営理念、および、オリジングループ行動憲章を基本的な考え方として、製品・サービスの提供を通じて社会的課題を解決することで、持続的な社会づくりに貢献し、企業価値の向上に努めます。

1. 気候変動などの地球環境問題への配慮

省エネルギー、クリーンエネルギー、化学物質排出削減などの環境に配慮した製品の技術開発や生物多様性の取り組みなど環境に配慮した活動に全社を挙げて取り組みます。

2. 人権の尊重、従業員の健康・働く環境への配慮や公正・適切な処遇

ステークホルダーの皆さまとともに、人権と働き方に関する基本的権利に配慮し、明るく生き生きと働ける、安全な職場環境の実現に取り組みます。

3. お取引先との公正・適正な取引

国内外の法令やルールを遵守し、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行うとともに、企業情報を積極的かつ公正に開示し、お取引先とも連携してサプライチェーン全体で公正な事業活動に取り組みます。

CSRからサステナビリティへ ～サステナビリティ委員会の設置～

オリジンは「企業の社会的責任」から「持続的な成長と中長期的な企業価値向上」に力点をシフトし、サステナビリティ経営の取り組みを強化するため、「サステナビリティ委員会」を設置しました。

サステナビリティ委員会は、代表取締役 社長を最高推進責任者とし、取締役および事業部門の責任者である執行役員等によって構成されます。

マテリアリティ、KPIの決定およびそのモニタリング、改善計画の指示を行い、サステナビリティ経営を推進するとともに、取締役会に報告、提言を行います。

同委員会のステアリングコミッティとしてサステナビリティ実行委員会を置き、課題解決の実務体制を整えています。



カーボンニュートラルに向けたCO2排出量の中期削減目標

オリジンは、カーボンニュートラルへの貢献に向けて、2030年に、自社分のCO2排出量を50%削減（2015年基準）する中期削減目標を設定しました。

Scope 1、2:

2050年カーボンニュートラルに向け、2030年のScope 1、2のCO2排出量について2015年の排出量を基準として50%削減する。

Scope 3:

Scope 3のCO2排出量について、2021年度にサプライチェーン全体の見える化に取り組み、推計結果を2022年度に公表。カテゴリ毎の要因分析の上、別途、目標を掲げて削減に取り組む。

人権尊重 ～サプライチェーンのサステナビリティ推進～

オリジンは、サプライチェーン全体で公正な事業活動に取り組むため、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）発行の「責任ある企業行動ガイドライン」を使用し、今後、お取引先におけるサステナビリティの取り組み状況について定期的に調査・確認を行ってまいります。



- ・JEITA方針に基づくサステナビリティ推進
- ・サプライチェーンとの協業
- ・OECD人権デューデリジェンスの遵守状況の確認

海外事業のガバナンス体制強化、海外事業戦略

2021年7月27日プレスリリース

中国 上海及び東莞における不正事案発生により関係者処分

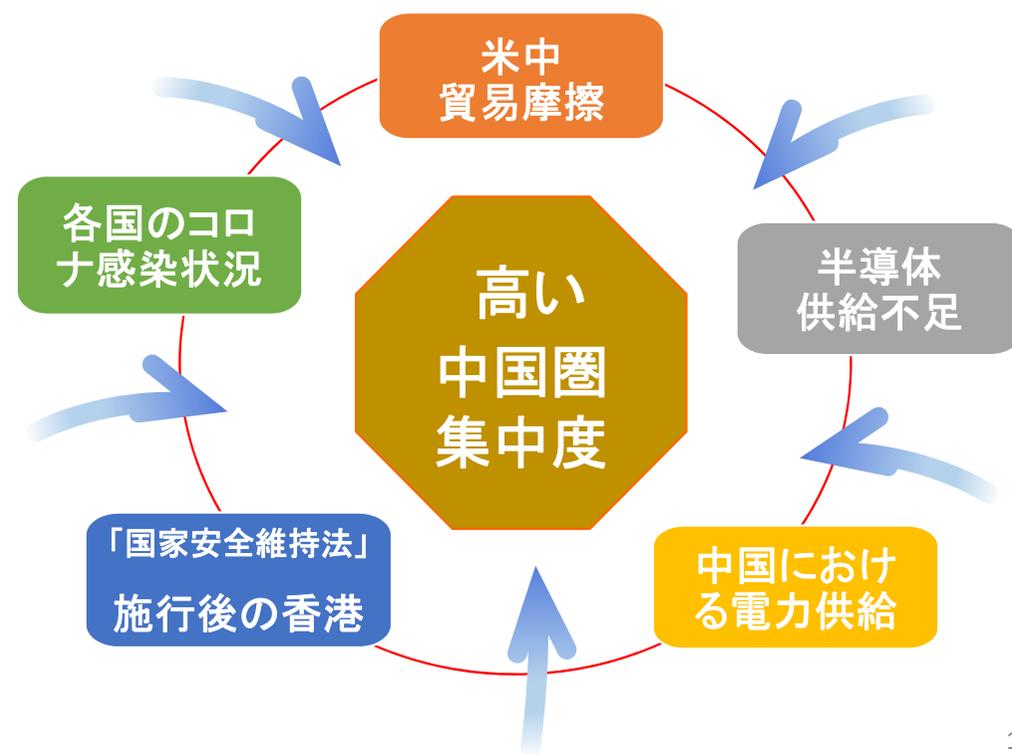
海外事業の強化

再発防止への取り組み

海外拠点長への再教育実施

海外拠点における内部通報制度の再啓発

リーガルチェック機能の強化



決算概況



株式会社オリジン

証券コード: 6513



執行役員 経理部長
赤松 敦

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

第2四半期決算及び通期業績予想

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年同四半期と比べ、5事業とも増収増益
 通期業績予想は、世界的な半導体不足や中国経済減速等により、3Q-4Qの利益面は厳しい見通し

(単位:百万円) 第2四半期決算及び通期業績予想 (単位:百万円)



第2四半期決算ハイライト

(単位:百万円)

	21年3月期 1Q-2Q	22年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減率
売上高	11,505	15,118	31.4%
営業利益	△1,052	668	—
経常利益	△911	883	—
親会社株主に 帰属する四半期純利益	△1,493	445	—
1株当たり四半期純利益	△237.03	71.76	

(単位:円)

セグメント別状況

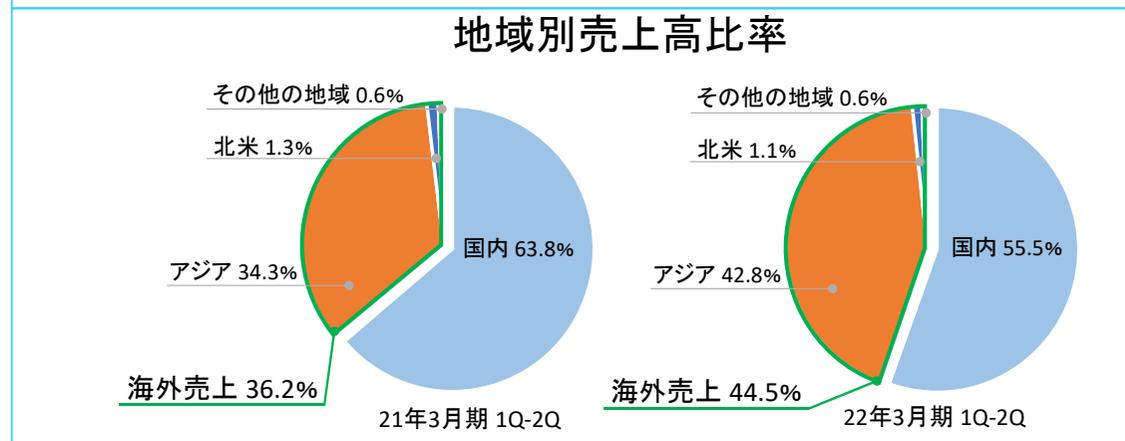
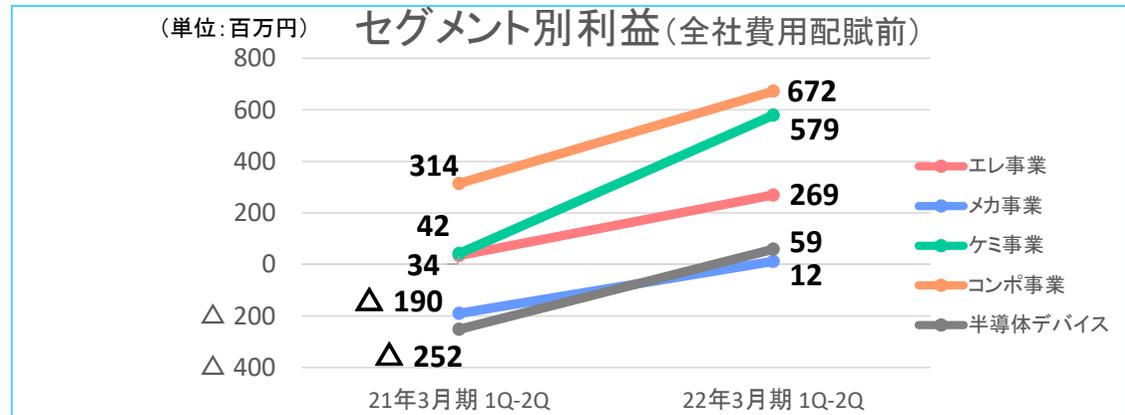
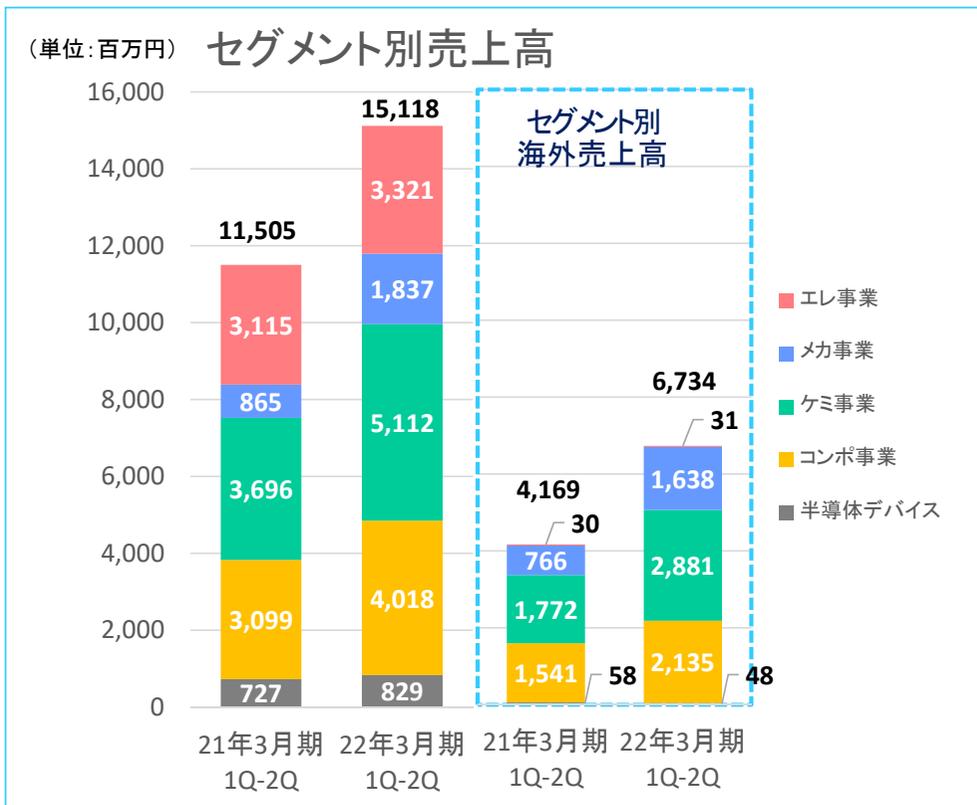
エレクトロニクス事業：医療用電源が堅調に推移し増収増益

メカトロニクス事業：前期にウェアラブル市場へ投入した光学レンズ貼合装置が大きく寄与し増収増益

ケミトロニクス事業：半導体調達難に伴う自動車メーカーの減産が国内で大きく響くも、海外子会社が好調に推移し増収増益

コンポーネント事業：事務機器をはじめ、全ての産業機器関係が伸長し増収増益

半導体デバイス事業：半導体製造装置市場、工作機械市場を中心とした産業機器関係及びかねてより取り組む医療機器市場が好調に推移し増収増益



キャッシュ・フロー、設備投資、減価償却費、研究開発費

営業活動によるCF : 税金等調整前四半期純利益の計上、減価償却費の計上

投資活動によるCF : 定期預金の純減少額

財務活動によるCF : 非支配株主への配当金の支払額

22年3月期1Q-2Qの主な設備投資 : コンポーネント事業の試験機、測定器の更新

売上高研究開発費比率 : 売上高増加に伴い1.8%減少

キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	21年3月期 1Q-2Q	22年3月期 1Q-2Q	前年同期 増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△300	1,379	1,680
投資活動による キャッシュ・フロー	△40	50	90
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,009	△795	214
現金及び現金同等物の 増減額(△減少)	△1,472	797	2,269
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,239	5,818	579

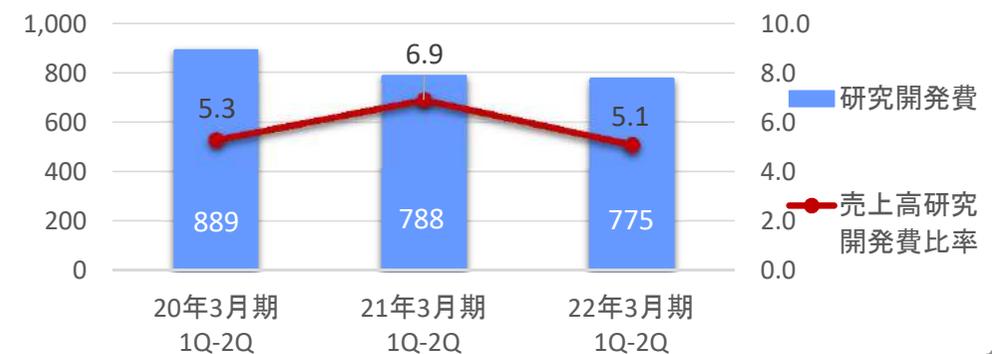
設備投資、減価償却費

(単位:百万円)



研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位:百万円)



貸借対照表、配当の状況

流動資産増加の主な要因 : 現金及び預金5億3千9百万円の増加、たな卸資産4億4千2百万円の増加

流動負債増加の主な要因 : 流動負債のその他3億3千3百万円の増加、仕入債務2億3千7百万円の増加

純資産増加の主な要因 : 為替換算調整勘定3億8千7百万円の増加、利益剰余金3億5千7百万円の増加、その他有価証券評価差額金3億2千3百万円の増加

貸借対照表

(単位:百万円)

	21年3月期末	22年3月期 2Q末	前期末 増減額
流動資産合計	23,943	25,614	1,670
固定資産合計	16,949	16,605	△344
資産合計	40,893	42,219	1,325
流動負債合計	8,223	8,963	740
固定負債合計	9,104	8,713	△391
負債合計	17,328	17,677	349
純資産合計	23,565	24,542	976
負債純資産合計	40,893	42,219	1,325
自己資本比率	51.8%	52.7%	0.9%

配当の状況

(単位:円)



22年3月期の配当の状況については、業績見通し・外部環境の変化などを総合的に勘案し、1株当たり年間40円を予定。

※第2四半期末の配当については、2021年11月9日開催の取締役会にて1株20円で決議

期末の配当金については、1株20円を予定

研究開発の方向性について



株式会社オリジン

証券コード: 6513



常務執行役員 研究開発本部長
杉山 泰之

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

本日の内容

1. 技術を変える

- ・オープンイノベーションの加速
- ・コア技術を基盤とした事業領域の拡大
- ・マーケットインの研究開発強化

2. カーボンニュートラルに向けた研究開発

- ・カーボンニュートラル実現に向けたScope1, 2, 3におけるR&D

3. コア技術の深化と進化、新製品開発の強化

- ・コア技術の深化と進化による技術開発力の一層の強化
- ・新製品売上高比率の向上

4. 最近の研究開発事例(研究開発本部)

技術を変える

・社会的課題解決、顧客価値向上を目指して、取り組みを加速

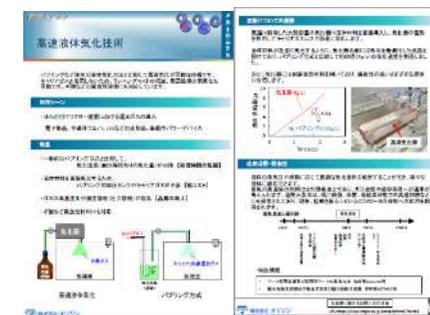
□ オープンイノベーションの加速

- 社内技術・リソース活用によるスタートアップ企業等との連携
- 社内公募制度の運用によるイノベーションテーマの発掘推進
- コア技術の発信による新規案件の獲得



□ コア技術を基盤とした事業領域の拡大

- カーボンニュートラルに向けた技術開発の強化
- コア技術の深化と進化



□ マーケットインの研究開発強化

- 全社注力市場への事業部連携での取り組み



カーボンニュートラルに向けた研究開発

・カーボンニュートラル実現に向けたScope 1, 2, 3におけるR&D

□ Scope 1, 2:

- 中期CO2排出量削減目標に資するR&D
(2030年に50%削減(2015年比))

□ Scope 3:

- 調達・新製品設計時におけるCO2排出量削減
- お客様の製品使用時におけるCO2排出量削減に貢献する製品開発

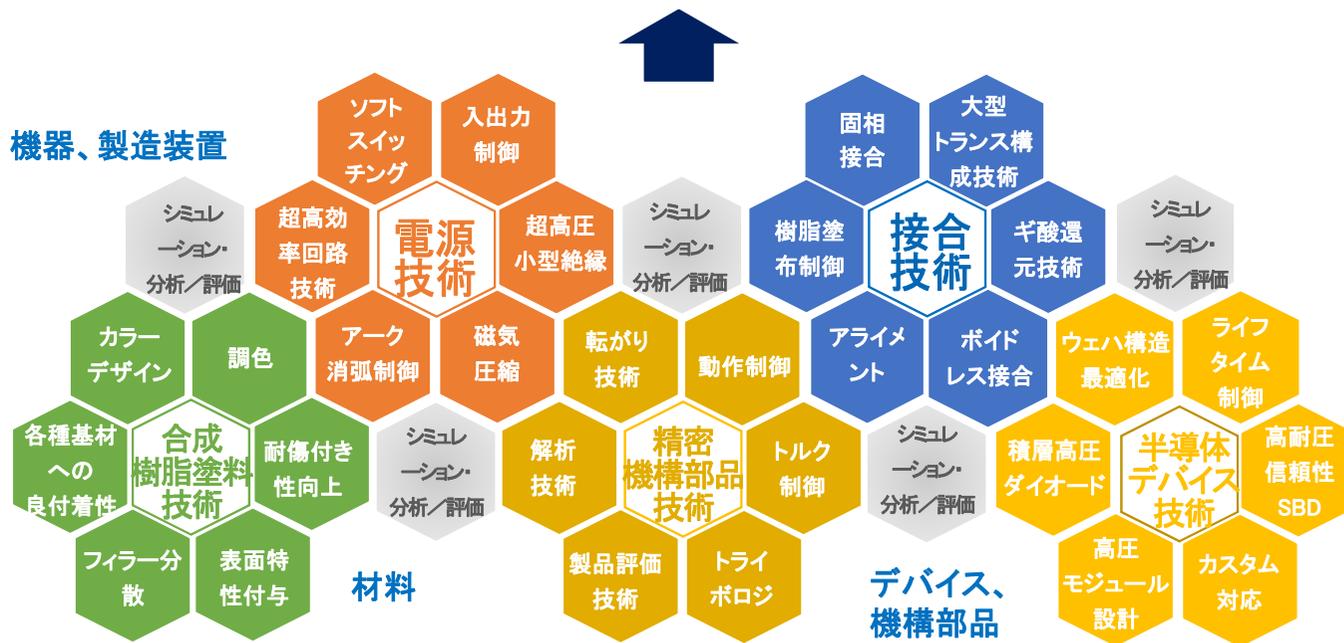


- ・高効率な絶縁型双方向DC/DCコンバータ
- ・塗布時にエネルギー利用の少ない塗料
- ・メカニカルな機構のみで動作する精密機能部品

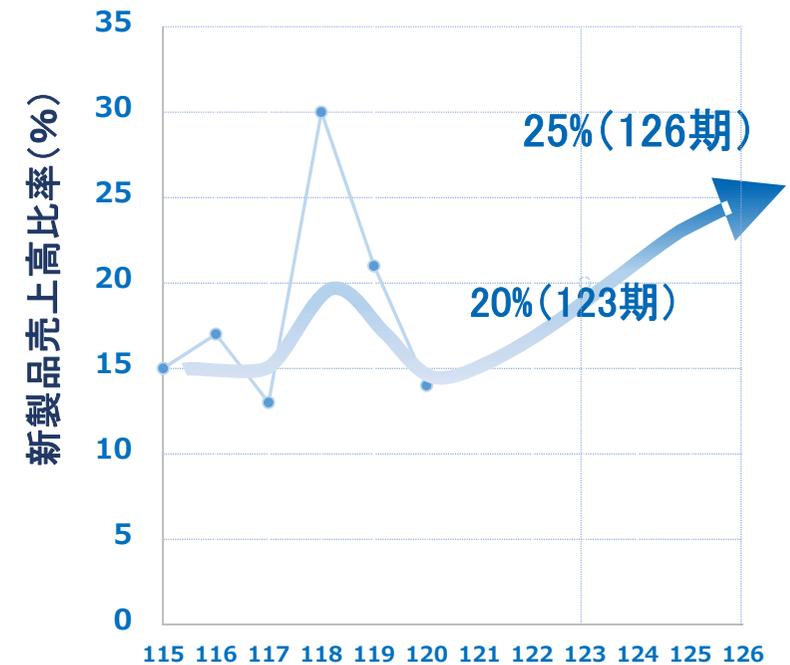
コア技術の深化と進化、新製品開発の強化

- ・コア技術の深化と進化による技術開発力の一層の強化
- ・新製品売上高比率の向上 (20% (123期)、25% (126期))

コア技術の深化と進化



全売上高に占める新製品売上高比率



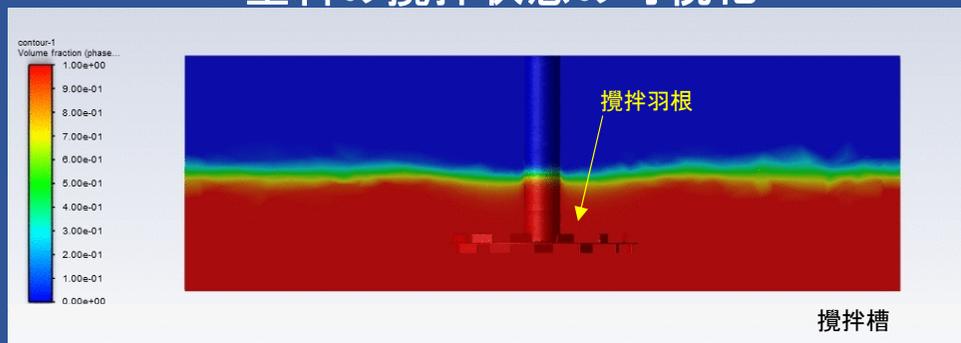
最近の研究開発事例

- ・混相流の流体シミュレーションによる塗料の攪拌状態の可視化
- ・応力、歪の構造シミュレーションによるトルクリミッタのコイルの変形挙動の可視化

シミュレーション

流体シミュレーション(混相流)

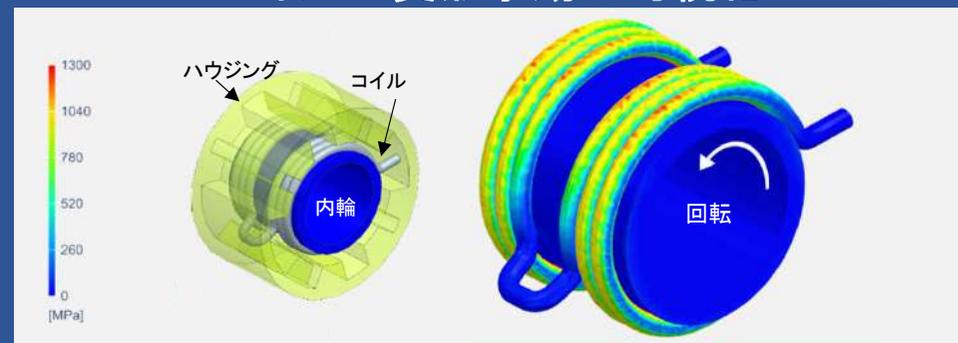
塗料の攪拌状態の可視化



高粘度(赤)と低粘度(青)塗料の攪拌シミュレーション

構造シミュレーション(応力、歪)

コイルの変形挙動の可視化



トルクリミッタの強度解析シミュレーション

技術にこだわり
ニッチ・トツプ
を目指す



事業の成長戦略
エレクトロニクス事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513



執行役員
エレクトロニクス事業部長
福田 健夫

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

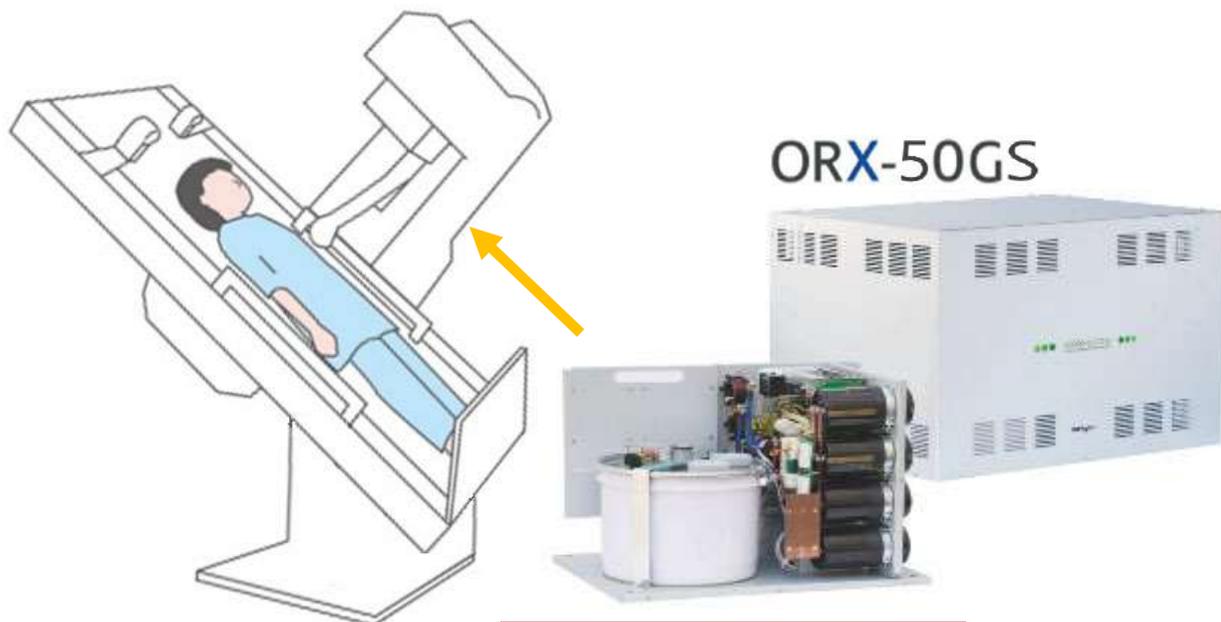
22/3期 重点施策計画

- ◆ 市場優位性ある高圧電源技術に注力
医療用診断市場向け電源の新製品開発加速
半導体製造装置用電源の拡販活動推進
- ◆ エネスト市場への参入
- ◆ 構造改革の推進(基礎技術、生産体制)

事業の拡充 → 高電圧電源事業の拡充

医療診断用X線電源(医療市場)

一般撮影用に加え、外科用・回診車用(X線管内蔵のX線発生器)など
ラインナップを充実し売上拡大を図る



X線ジェネレータシステム



X線発生器(高電圧回路+X線管球)

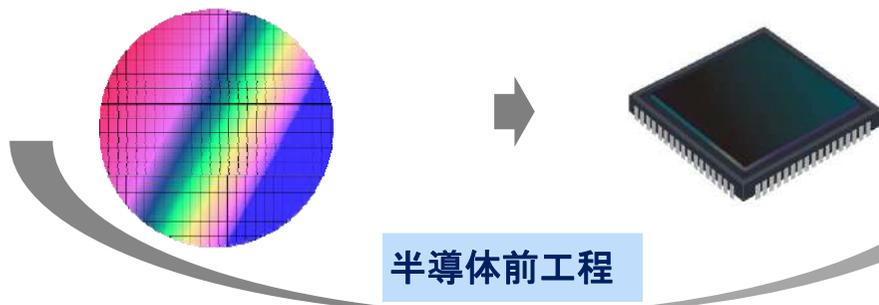
事業の拡充 → 高電圧電源事業の拡充

半導体製造装置用電源(半導体市場)

フォトマスク成形(EB)、露光(ステッパー) エッチング、薄膜(スパッタ)、ウェハー検査各装置用電源において市場需要に対応し売上に寄与していきます。



電子ビーム描画装置電源



半導体前工程

ウェハー検査(SEM)用電源



スパッタリング用電源



ステッパー装置光源用電源



エッチング装置用電源

22/3期 重点施策計画詳細

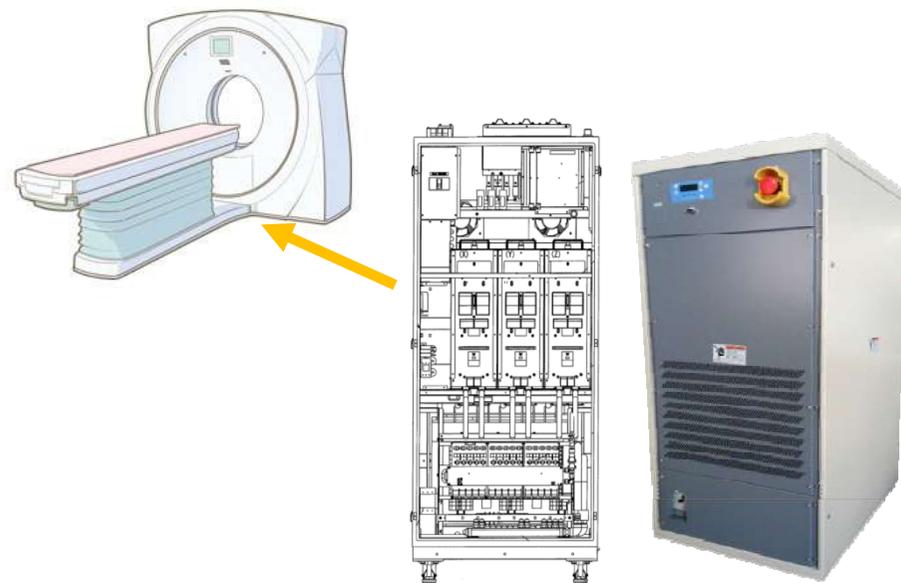
【エレクトロニクス事業】

中長期的な新規事業へのチャレンジ

医療用診断市場向け新製品の開発で売上拡大



超音波診断装置用電源



MRI診断装置用電源・CT診断装置用電源

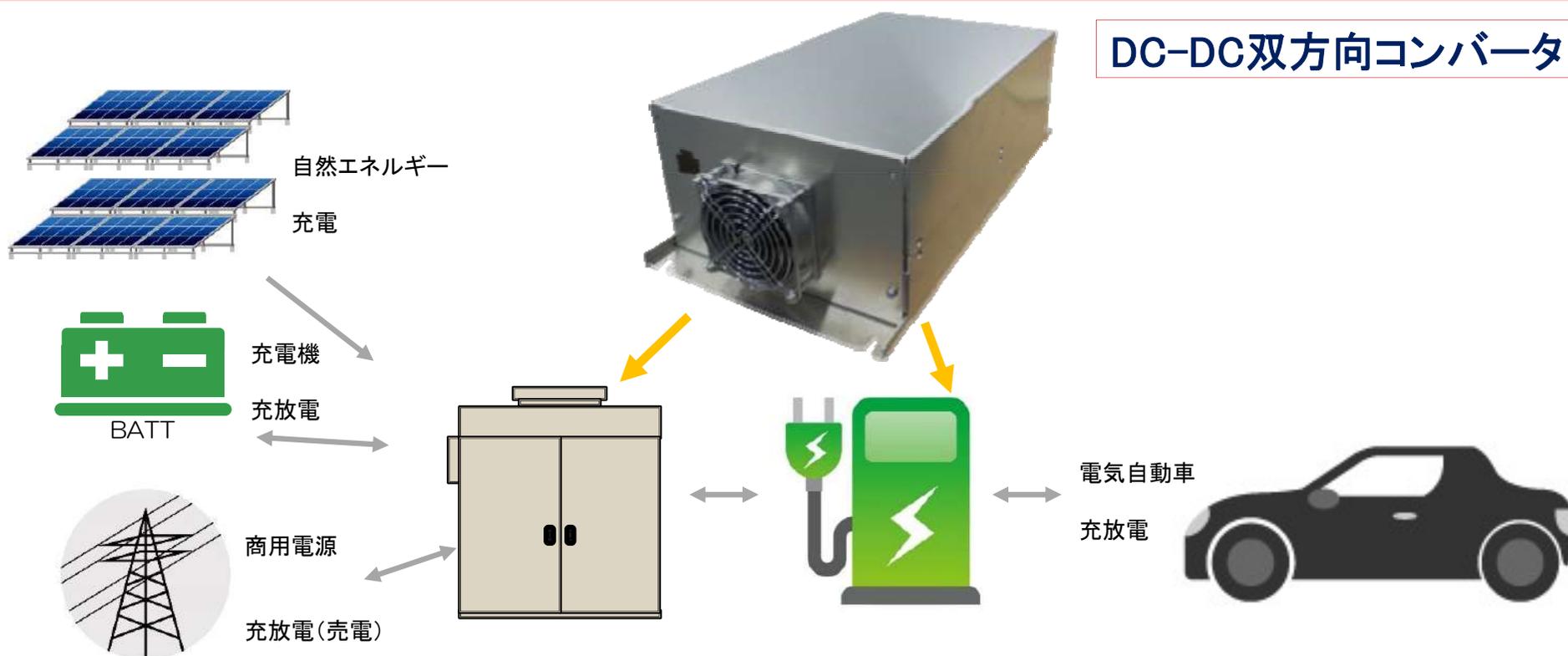
22/3期 重点施策計画詳細

【エレクトロニクス事業】

中長期的な新規事業へのチャレンジ

エネスト市場への参入 (V2H/V2Gなど) での事業拡大

- ※V2H : 電気自動車に蓄えられた電力を家庭用に有効活用する方法
- ※V2G : 次世代自動車の蓄電池を電力系の蓄電池として利用する方法



事業の成長戦略
メカトロニクス事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513



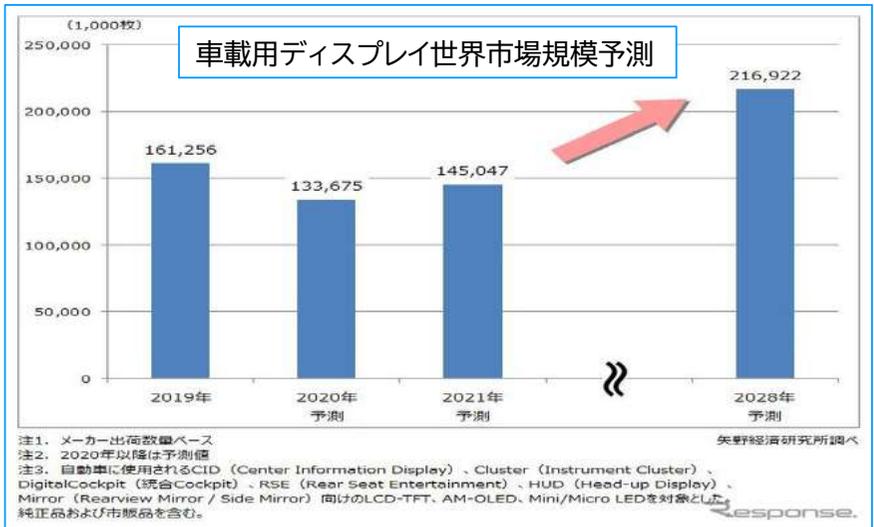
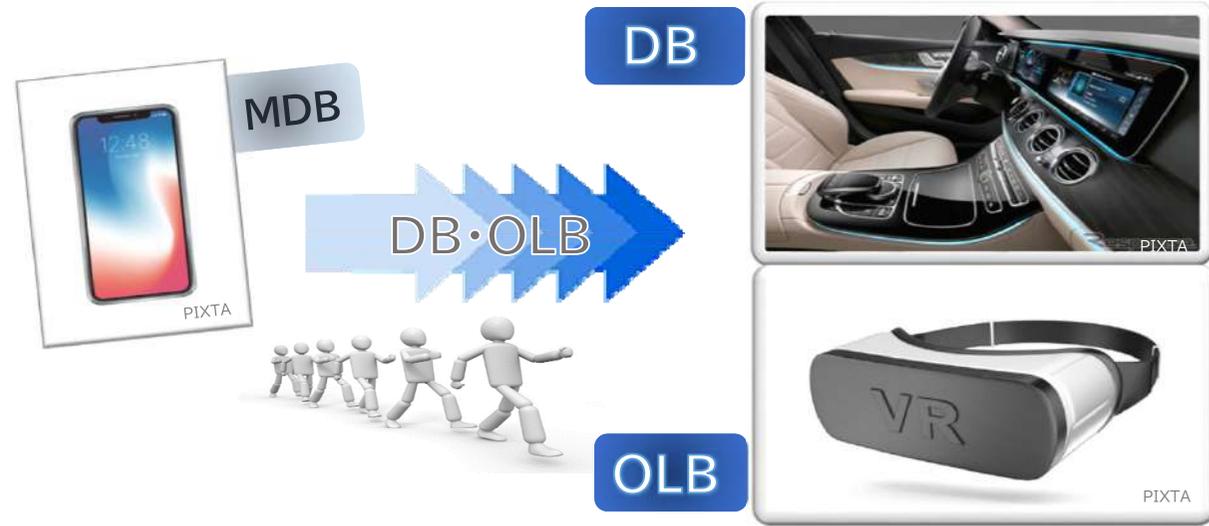
上席執行役員
メカトロニクス事業部長
内藤 佳彦

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

精密塗布・貼合技術をDB・OLBへ展開

【メカトロニクス事業】 成長戦略2021

今後の成長が見込まれる市場へ投入



◆ **DB(車載・産業用ディスプレイ貼合装置): Display Bonder** 欧州拡販
欧州への拡販に取り組んで参ります。

◆ **OLB(光学レンズ貼合装置): Optical Lens Bonder** 実績拡大
前期、および今上期に実績あげ、今下期以降、更なる拡大を図り、当事業部の基幹事業の1つと位置づけ、取り組んで参ります。

◆ **新規事業開拓への取組み: New Business** 2023年
売上目標
保有技術(貼合/接合)を活用し、
2023年売上目指し、新規事業開拓に取り組んでいます。



Display Bonder DB(車載・産業用ディスプレイ貼合装置)

【メカトロニクス事業】

成長戦略2021

ディスプレイ搭載機会

EV(電気自動車)化と自動運転の進展
新興メーカー含め、新たなプレイヤーの登場
産業用機器等への拡大



PIXTA

搭載ディスプレイのニーズ

ディスプレイの大型化	貼合自動化
曲面化をはじめとする多様な形状	
マルチディスプレイ化	

当社の取組み

新規顧客開拓

貼合プロセスサポート
各種装置化と提案



PIXTA

◆ 欧州への拡販

自動車の開発拠点である
欧州を重要市場と位置付けます！



～現行製品～



DFシリーズ



NRシリーズ

事業の成長戦略
ケミトロニクス事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513

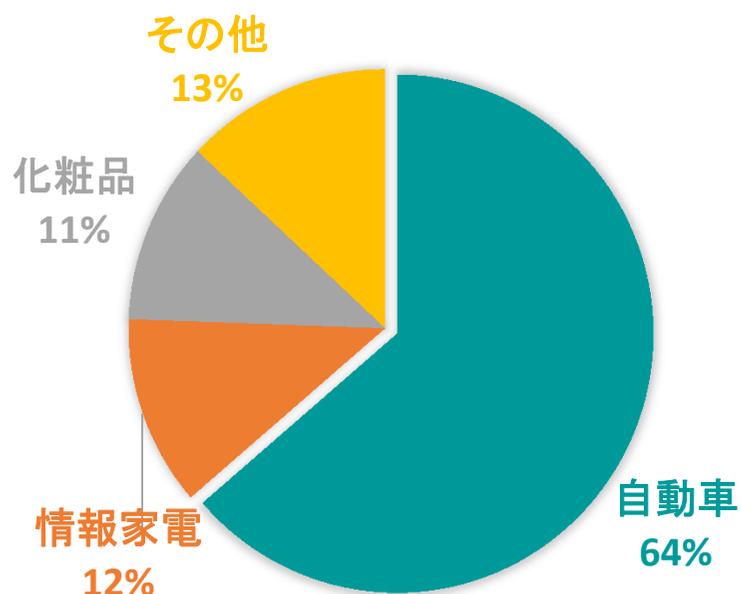


執行役員
ケミトロニクス事業部長
岡部 敬三

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

ケミトロニクス事業の主要市場

【ケミトロニクス事業】



自動車市場が
過半を占める

自動車市場での成長戦略

1. CASE対応

機能性塗料

2. 環境対応

カーボンニュートラルへの
貢献

1. CASEに貢献できる機能性塗料

【ケミトロニクス事業】

C : つながる
A : 自動運転
S :
E :

ヘッドアップディスプレイ内部
無反射塗料

ディスプレイ
指紋防止塗料
抗菌・抗ウイルス塗料

センサー
電波透過金属調塗料

車載カメラ
無反射塗料



1. CASEに貢献できる機能性塗料

【ケミトロニクス事業】

C : つながる
A : 自動運転
S : (カー)シェア
E :

耐擦傷、耐アルコール塗料



抗菌、抗ウイルス塗料



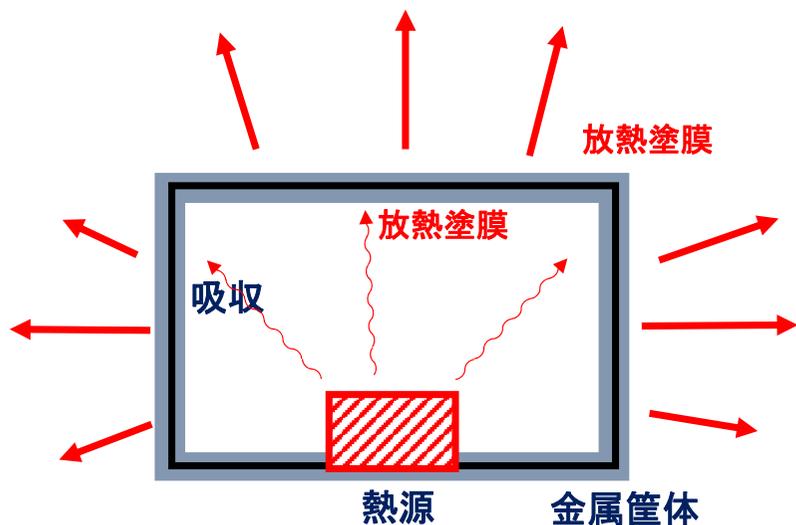
1. CASEに貢献できる機能性塗料

【ケミトロニクス事業】

C : つながる
A : 自動運転
S : シェア
E : 電動化

放熱塗料

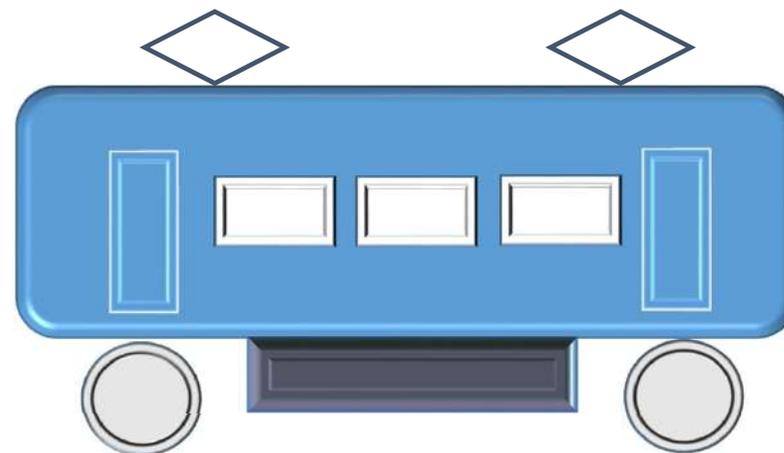
放熱塗料



小型デジタルカメラ

SIGMA

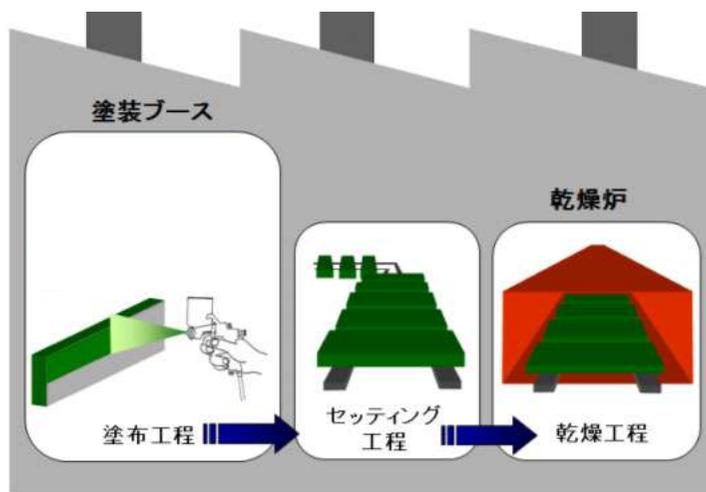
鉄道車両制御機器ボックス



2. 環境対応に貢献できる意匠塗料

【ケミトロニクス事業】

(1) 省エネルギー2液塗料



ユーザー様の塗装工程でエネルギーを最も消費するのは塗膜硬化の乾燥工程



エネルギー削減のために硬化に要する時間短縮と乾燥温度を下げることを目指す

一般的な高光沢塗料

硬化条件： 80°C × 30分



省エネルギー2液塗料

硬化条件： 60°C × 10分

UV硬化等の追加設備導入なしで
大幅な消費エネルギー削減可能

2. 環境対応に貢献できる意匠塗料

【ケミトロニクス事業】

(2) 非化石資源由来塗料

2005年頃に植物由来ポリ乳酸系樹脂を製品化するもPCでの導入実績以外に用途が広がらず

今回はバイオマス由来やCO₂を吸収し原料とする樹脂技術を進化させた

関連技術の活用による次世代製品開発に漕ぎつけた



出典: 東京大学未来社会協創推進本部(FSI)プロジェクト工学系研究科・工学部SDGs学内研究活動FEATURES CO₂からプラスチックを作る 2019年7月17日掲載 <https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/fsi014.html>

事業の成長戦略
コンポーネント事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513



取締役上席執行役員
コンポーネント事業部長
稲葉 英樹

2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

◆既存市場：事務機・金融機器・半導体設備 市場

◆ターゲット：『ローコストによるボリュームゾーンへの参入』
『他社との差別化で市場性向上』

付加価値向上で現状を打破！

Item



【超ローコストOTL】



【半導体製造装置
特殊バルブ用】

Use Example



【インクジェットプリンタ部】



9 営業と流通ネットワークの
拡充とつくりかえ



11 組み替わらせる
イノベーション

Features

- ◆インクジェットプリンタ等のボリュームゾーンへの参入
- ◆ワンウェイラッチ(OWC)の利益の拡大
- ◆半導体製造装置市場は2022年には一旦落ち着くも、2023年からは再上昇と予測

◆注力市場：自動車市場

◆ターゲット：『車載アクチュエーター用トルクリミッタ』

EV市場拡大に伴う電動化が加速し需要拡大！



Item



ダンパー用トルクリミッタと安全機構用トルクリミッタが1つになった二段式タイプ



Use Example

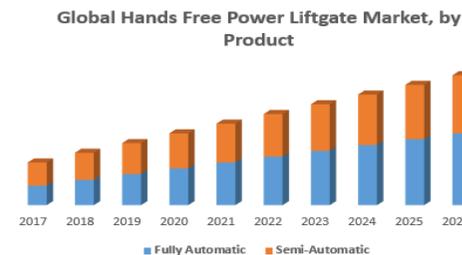
電動リアテールゲート
(パワーバックドア)



Features

- ◆安全機能
- ◆保持力調整
- ◆開閉速度安定
- ◆軽量化
- ◆省スペース

Market Trend



年平均市場成長率(CAGR)6.4%で拡大する見通し [出展:MAXIMIZE]

国内自動車メーカーへの本格量産納入開始に伴い、海外市場(中・欧・米・韓)への拡販活動を強化する！

海外市場(中・欧・米・韓)への拡販活動を強化する！

◆注力市場：住宅設備・ヘルスケア市場

◆ターゲット：『ブラインド用ブレーキ機構／補助製品用・複合ユニット』

複合化ユニット及び省スペース化に挑戦！



Item



内部に搭載された『ブレーキ機能』により、住宅用ブラインド・ロールカーテンの自重下降時における衝撃を吸収しながら一定の速度でブラインドを下降させる。

Use Example



昇降用遠心ブレーキ



複合ユニット製品



Features

- ◆速度依存機能搭載
- ◆静音化向上
- ◆ブレーキ力調整機能付
- ◆環境温度特性向上

Feature Development



事業の成長戦略
半導体デバイス事業



株式会社オリジン

証券コード: 6513



半導体デバイス部長
岩田和也

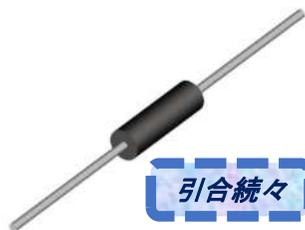
2022年3月期
第2四半期連結決算説明資料
2021年11月24日

高圧ダイオード【販売強化製品】

【半導体デバイス事業】
～注力市場・製品・トピックス～

高圧ダイオード

MD15FP3



引合続々

NEW MD15EP06

小径化(30%ダウン)
小電流化
コストダウン



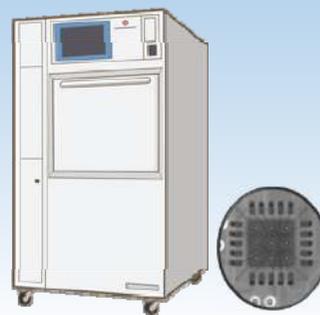
海外大手電源メーカー1次評価合格
(次年度流動開始?)

主な用途

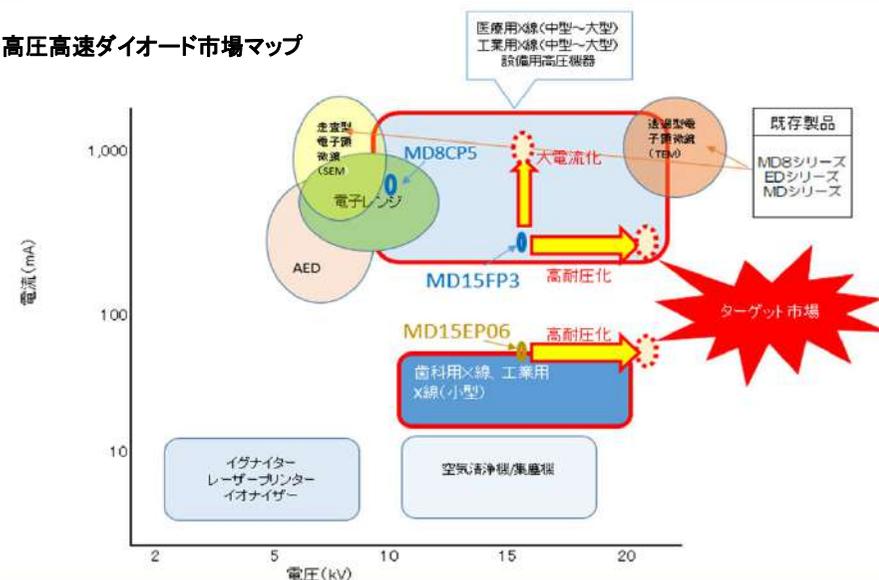
医療用X線装置



工業用X線装置



高圧高速ダイオード市場マップ



アキシャルリード線タイプ製品【生産強化製品】

アキシャルリード線タイプ製品

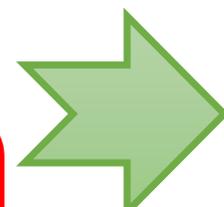


国内メーカー各社 **撤退**

販売中止

EOL

DELAYED



Origin は、強化します！！

ニッチ・トップ



引合続々

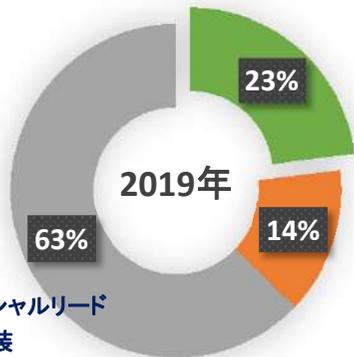
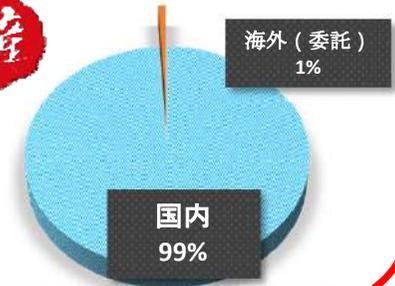


さらに、**国産**！！

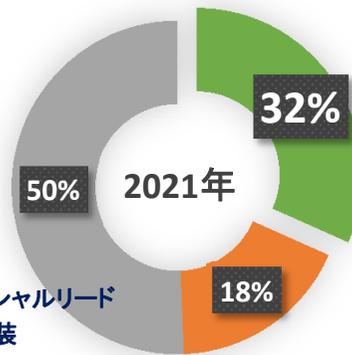
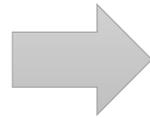


Origin 北海道オリジン(株)
半導体製造50年の実績

2020年生産実績



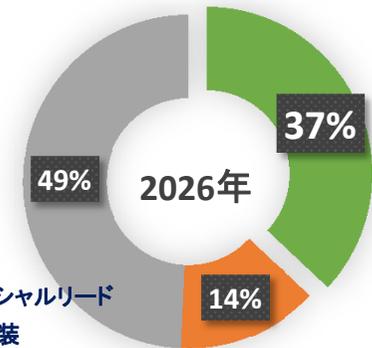
- アキシャルリード
- 面実装
- モジュール



- アキシャルリード
- 面実装
- モジュール



将来



- アキシャルリード
- 面実装
- モジュール

- ◇ 当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。

- ◇ 当資料に掲載しております情報は、2022年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、
内容についていかなる保証を行うものではありません。

- ◇ 業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しています
ので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。

- ◇ 当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したも
のではありません。

————— プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口 —————

株式会社オリジン

経営企画本部

TEL:048-755-9348



株式会社オリジン